



# 農 委 だ よ り 常 総

平成23年1月1日発行  
第 10 号

〒303-8501  
茨城県常総市水海道諏訪町3222-3  
電話 0297-23-2111(代表)

発行／常総市農業委員会

編集／農委だより常総編集委員会



地域交流センターから、石下庁舎・石下総合福祉センターと筑波山を望む

## 年頭の ごあいさつ



農業委員会 会長  
倉持 創一

新年明けましておめでとうございます。皆様方にはご家族おそろいで、輝かしい希望に満ちた新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。

日頃より農業委員会の活動につきましては、格別のご理解とご協力を賜り心から感謝申し上げます。

さて、昨年は遅い春の訪れから、記録的な猛暑となった夏が過ぎ、稲作農家には過去10年で最も低い1等米比率64%（常総ひかり農協管内は85%）という厳しい年でもありました。

このような中、農産物の輸入自由化が拡大され、さらに食料農業農村基本法の施行により、農業を取り巻く情勢は大きく変化し、農家の考えも様々になってきており、その中で農業委員会活動はますます重要なものとなっております。

当市農業委員会としましては、農業者の公的代表として、意欲と活力ある農業を目指し、農政の推進に取り組んで参りたいと考えております。

本年も、皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げます。ごあいさついたします。

本年もよろしく  
お願いいたします

農業委員

(議席順)

橋本 武夫  
倉持 泰仍  
田村 繁二郎  
門井 匡史  
松崎 信太郎  
大山 榮市  
喜見山 明  
吉原 光夫  
草間 正詔  
倉金 一廣  
山本 幹一  
岡野 孝一  
渡辺 源一  
秋田 文男  
坂巻 文夫  
古谷 ミチ子  
小林 剛  
石塚 寛一  
渡辺 勝一  
斉藤 ちよ  
増田 亮  
本諏訪 文夫  
倉持 創一

### 未来の担い手に

玉地区  
倉田 光雄 さん

9年前、子供が生まれたのを機に『千石きゅうり』と水稲を栽培していた祖父と母を手伝う形で、妻と就農しました。二人とも農業の知識は皆無で多少の不安も残る中、作業や生産効率アップの為、思い切ってパイプハウスから加温設備のある大型ハウスへ建て替えを決心。しかしその完成を待たず、肥培管理から機械器具の整備に至るまで、農作業に関わる全てを一人で担っていた祖父が他界し、経営者としての出発は順風満帆ではありませんでした。それでも、千石胡瓜部会や支部の皆様方をはじめ、多くの方々にアドバイスを頂きながら支えられて、日々奮闘しています。



茨城県推奨銘柄である『千石きゅうり』は、味や鮮度は勿論、下位等級に至るまで厳密な手選別で、市場で常に高評価です。しかし、野菜には、僅かな油断ですぐに病気や害虫にやられてしまう弱さもあります。一作一作『今度こそは』と試行錯誤の連続ですが、

新技術や資材を積極的に取り入れると共に、母の記憶を頼りに祖父が長年培ったノウハウを融合させ、自分の勘も信じながら経験積み重ねてきた結果、毎日何かに気づき、少しずつ色々な物事が見えてくるようになりました。

昨年秋には地域の小学生が社会科校外学習で農場見学をしてくれました。熱心に質問し、楽しそうに収穫したり、袋詰めやラベル貼りを体験する姿を見て、安全に安心して食べられることの大切さを改めて気付かされました。

そして、これからも機会があれば、農業の楽しさなどを伝えていき、その中から未来の担い手が育っていけば幸いです。これからも夫婦仲良く頑張ります。

### 消費者として思う

石下地区  
小倉 とみ子 さん

私の家に東京からお客様が来ることになり、つくばセンターで待ち合わせをして、昼食をみずほ村市場のお蕎麦屋さんで食べました。おいしいお蕎麦で皆喜んでいました。帰りに、みずほ村市場に寄ったところ、試食用の野菜や果物が沢山でていました。東京のお客様はおいしいと言って沢山買って宅急便で自宅や友人に送っていました。私も、沢山買ってきました。

私の住んでいる旧石下町では、試食を出して野菜や果物売っているお店はほとんどありません。

千石きゅうりや石下の梨、すいかなど、おいしい野菜や果物は沢山あるのに、手に入るのには遠くまで行かないとなりません。

石下にも試食ができて買える物ができる直売所のような所がきたら楽しいと思います。また、いろんなアイデアを活かした料理も並んでいたら、もっと楽しいと思います。

#### 平成21年 主要業務実績

農地移動の実態 (1月～12月)

条 項 別	件数	面積(m <sup>2</sup> )
3 条	所有権移転	101 236,730
	賃貸借	6 20,595
	使用貸借	20 204,551
	届 出	7 25,762
4 条	許 可	17 7,717
	届 出	6 3,191
5 条	許 可	112 94,606
	届 出	21 5,649
4・5条制限除外	59	75,827
大臣許可	0	0
18条解約	112	189,734
証 明	非農地証明	4 2,851
	転用事実証明	2 440
	現況証明	4 2,779
農業経営基盤強化	273	862,859

#### 平成21年 農用地利用集積事業

利用権設定 (1月～12月)

地 区 別	面積(m <sup>2</sup> )	地 区 別	面積(m <sup>2</sup> )
水海道	0	内守谷	40,529
豊岡	61,800	菅生	78,670
菅原	20,317	大塚戸	13,597
大花羽	50,603	石下	68,098
三妻	42,681	豊田	45,457
五箇	123,507	玉	34,981
大生	93,183	岡田	41,505
坂手	40,447	飯沼	107,484
計			862,859
田畑別面積			
田	620,879m <sup>2</sup>		
畑	241,980m <sup>2</sup>		
計	862,589m <sup>2</sup>		

# 耕作放棄地解消に向けた取り組みを支援します

耕作放棄地解消に向けた取り組みが全国一斉にスタートし、常総市では、昨年8月に耕作放棄地対策協議会（会長 常総市長、副会長 市農業委員会会長・市産業労働部長）が設立されました。現在、現地調査に基づき地権者への意向調査を実施し、今後その結果をもとに貸し借りのあっせん、指導等を行っていきます。

また、協議会では耕作放棄地を解消する取り組みに対して一定額の補助金を交付します。これから所有者に代わり耕作放棄地を再生・利用しようとお考えの方は、ぜひご活用下さい。支援メニューは次のようになっております。なお、補助金対象となるのは、農業振興地域農用地区域内の農地となります。

## 耕作放棄地再生利用交付金

### 支援メニュー

**再生作業**（障害物除去・深耕・整地等）  
**荒廃の程度に応じ、3または5万円/10a**

- 再生作業経費が6～10万円/10aの場合  
 …3万円/10aを交付
- 再生作業経費が10万円/10a以上の場合  
 …5万円/10aを交付



**土壌改良2.5万円/10a**（最大2年間）

必要に応じ、堆肥投入や緑肥栽培などの土づくりに対し、最大2年間交付




**営農定着2.5万円/10a**（1年間）

再生農地に作物を作付する際の支援として交付（水田を除く）



**重機等が必要な再生作業を支援**

- 荒廃が進み再生作業経費が10万円/10a以上必要な場合は、その費用の1/2以内等を補助  
 例) 再生作業経費30万円の場合、15万円を交付




農業委員による農地パトロール！

### 問い合わせ先

市耕作放棄地対策協議会（農業委員会事務局内）  
TEL 0297-23-2111 内線 275

# 賃借料情報

平成21年1月から12月までに締結（公告）された賃貸借における賃借料水準（10aあたり）は、以下のとおりとなっております。

平成22年10月1日

## 1 田(水稲)の部

締結（公告）された地域名		平均額 (円)	最高額 (円)	最低額 (円)	データ数 (件)
旧水海道市	基盤整備地域	21,700	32,500	10,000	193
	未整備地域	21,500	26,000	6,500	77
旧石下町	基盤整備地域	19,100	26,000	6,500	113
	未整備地域	19,600	30,000	13,000	39
(参考) 常総市平均		20,500			422

## 2 畑(普通畑)の部

締結（公告）された地域名		平均額 (円)	最高額 (円)	最低額 (円)	データ数 (件)
旧水海道市全域		9,400	10,000	6,700	28
旧石下町全域		13,700	20,000	5,000	24
(参考) 常総市平均		11,600			52

- \* 1 この情報は、農地法第52条の規定により、賃借料の目安として提供するものです。
- \* 2 この情報は、平成21年中に実際に締結された賃貸借契約の賃借料データを集計したものです。
- \* 3 基盤整備地域とは、土地改良などにより圃場整備が完了している地域です。
- \* 4 データ数は、集計に用いた筆数です。
- \* 5 賃借料を物納支給（水稲）としている場合は、60kg当たり13,000円に換算しています。
- \* 6 金額は、算出結果を四捨五入し100円単位としています。
- \* 7 「(参考)常総市平均」の平均額は、各区分の平均値（四捨五入前）をデータ数により加重平均した値です。

【問合せ】 農業委員会事務局 23-2927(直) 23-2111(代) 内線273~275

今回の農家訪問は、市内崎房の菊地康等さんです。康等さんは、現在ご両親と研修生2人の5人で、レタス・ネギなどを栽培する専業農家です。本人によると、子供の頃からいつも学校が終わると、兄弟で畑に行って遊んでいたそうで、いつかは自分も農業をやるんだろうと思っていたそうです。24歳の時に就農し、それから数箇所農業研修を行い勉強したとのこと。研修の中で、自分の家の農業のやり方、考え方の違いに、農業にもい



ろいろなやり方、考え方があ  
るのだということに、考えさ  
せられたそうです。  
これからも、ご両親の農業  
を勉強しながら、自分色の農  
業ができるよう頑張っていき  
たいと力強く語ってくれまし  
た。



**結束一穂委員が逝去**  
昨年の11月20日、農業委員の結束一穂氏がご逝去されました。  
結束氏は、平成5年7月に農業委員に就任以来、永年にわたり地域農業の振興にご尽力されました。  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

営農と暮らしに役立つ

全国農業新聞

発行日 毎週金曜日

購読料 一月六百元

申込みは農業委員会へ